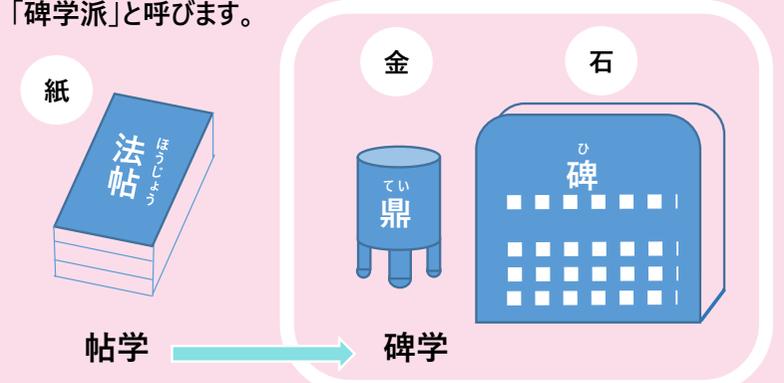


日 曜	ふくやま書道美術館常設展示室・展示室	多目的室
1 日	きんせき ひがくは	
2 月	<b>冬の所蔵品展 II 「金石を見つめる 一碑学派の人たち」</b>	
3 火	会 期：2026年2月13日(金)～3月29日(日)	
4 水	休館日：月曜休館 ※ただし、2月23日（月・祝）は開館、24日（火）は休館。	
5 木	会 場：常設展示室・展示室	
6 金	<b>展覧会内容</b>	
7 土	<p>本展では、碑学<sup>ひがく</sup>の精神を体現した書人の作品をご紹介します。特異な隷書<sup>れいしょ</sup>を展開し、行書<sup>ぎょうしょ</sup>にも隷書の筆法を取り入れた伊秉綬<sup>いへいじゆ</sup>や、碑帖<sup>ひてつ</sup>を兼習した何紹基<sup>かしょうき</sup>、金文<sup>きんぶん</sup>を善くした吳大澂<sup>ごだいせう</sup>、さらには生涯にわたり石鼓文<sup>こしやうせき</sup>を臨書した吳昌碩<sup>ごしょうせき</sup>など、清朝後期から民国期にかけて金石資料と向き合い、書の歴史に名を刻んだ開拓者の作品を展覧します。</p> <p>時代を切り拓いた書家たちが、古代の資料からどのように独自のスタイルを築き上げたのか。筆跡から滲み出る金石の煌きをご堪能いただければ幸いです。</p>	
8 日		
9 月		
10 火		
11 水		
12 木		
13 金		
14 土		
15 日		
16 月		
17 火		
18 水		
19 木		
20 金		
21 土		
22 日		
23 月	左：曾熙《古帖臨書冊》	
24 火	中央：吳大澂《篆書七言聯》	
25 水	右：吳昌碩《鐘鼎插花図軸》	
26 木		
27 金		
28 土		
29 日		
30 月		
31 火		

**もっと知ろう！ 碑学派の人たちとは？**

中国・清代後期の嘉慶<sup>かけい</sup>（1796～1820）、道光<sup>どうこう</sup>（1821～1850）年間には、青銅器や漢代の碑、北魏の碑などが注目を集め、書の技法を金石資料の文字に求める動きが盛んになりました。それまでの法帖を中心に学ぶ書法とは一線を画し、金属に鑄込まれた文字や石碑に刻された文字に新たな芸術性を見出した彼らを「碑学派」と呼びます。



ゴールド&ストーンまるで宝石です☆  
金石を見つめた碑学派の人たちの瞳は、キラキラしたのでしょうね☆

**所蔵品展覧料**

一般	150円(120円)
高校生以下無料	

- ※( )内は20名以上の団体料金
- 次の方は観覧料が無料です**
- 社会福祉施設に入所されている方
  - 福山市、府中市、神石高原町に住所を有する65歳以上の方  
(運転免許証やマイナンバーカードなど、住所・年齢が確認できるものが必要)
  - 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を持参する方、及びその介護者1名

※開館時間は午前9時30分から午後5時までです。  
※月曜日【    の日】は休館日です。


**ふくやま書道美術館**

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号  
J R福山駅福山城口(北口)から西へ約400m Tel. 084-925-9222

Webページ [www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/](http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/)  
電子メール [syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp](mailto:syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp)